

備える

災害そのときに

比較的災害が少ないといわれる広島県でも、近年、台風や豪雨、地震などで多くの尊い命や貴重な財産が失われています。

9月は、台風による被害が最も発生しやすいシーズンです。

過去の災害を教訓に、日頃から防災の準備をし、被害を最小限に抑えましょう。



普段から万全の対策を

市では、関係機関と連携し、災害に対応しています。より一層被害の軽減を図るためには、市の防災対策に加え、市民のみなさんによる防災活動が不可欠です。

日頃から災害に対する心がけをもって、台風シーズンに備えましょう。

◆家族で防災の話を

日頃から家族で、高潮・洪水ハザードマップなどを活用して危険箇所や避難場所、避難経路を確認しておきましょう。

◆日頃から避難袋の準備を

次のリストを参考に用意し、すぐ持ち出せるようにしておきましょう。

避難袋チェックリスト

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 非常食 |
| <input type="checkbox"/> 救急用品 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> 衣類 |
| <input type="checkbox"/> 下着 | |
| <input type="checkbox"/> 貴重品 | |
- (預金通帳、印かん、現金など)

◆家のまわりの整備、点検を

側溝や用水路にゴミがたまっているか、台風による強風で飛ばされそうなものがないか事前に確認しましょう。

う。ただし、大雨が降ると、側溝や用水路、河川では水流が速くなり大変危険なため、近寄らないようにしましょう。

危険と感じたら早めに避難しましょう！

◆情報収集して早めの避難を

最新の気象情報入手して、雨の降り方や周りの状況に身の危険を感じたら、浸水が始まる前に早めに避難しましょう。

※危険が迫っている場合、広報車で避難の呼びかけを行います。外からの広報や消防車のサイレンなどに注意しましょう。

◆避難する前に火元の確認を

電気・ガスなど火元を確認して、戸締りをしてから避難しましょう。

◆動きやすい格好で歩いて避難を

荷物は必要最低限にし、車での避難は、避難者・緊急車両の通行の妨げとなりますので控えましょう。

◆高齢者などの人に避難の支援を

高齢者・障害者等の災害時に手助けを必要とする人は、特に早めの避難が必要です。あらかじめ救助や避難の方法を周囲の人たちで話し合っておきましょう。

問い合わせ

総務課行政係
☎ 22-7719

テレビ・ラジオ・インターネットなどで大雨、台風などの情報を確認しましょう

広島県防災ウェブ

◆気象情報・土砂災害や洪水の危険箇所図など (パソコン)
<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/hdis/index.jsp>
(携帯電話)

<http://bousai.pref.hiroshima.jp/i/>

土砂災害危険区域図の情報

◆土砂崩れによる被害の恐れがある箇所の情報
<http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/karte/agreement.asp>

広島県防災情報メール通知サービス

◆気象情報や雨量、水位などの情報
<http://www.bousai-mail.pref.hiroshima.lg.jp>
※サービス利用の登録ができます

竹原市ホームページ

◆緊急避難場所や高潮・洪水ハザードマップなど
http://www.city.takehara.hiroshima.jp/soumu/bousai/bousai_m.jsp

私たちに できること

福祉施設での自主防災訓練

特別養護老人ホーム宗越園では、消防法で義務付けられている年2回の避難訓練に加え、独自に年6回の訓練を行っています。これらの訓練は、いつ起こるか分らない火災等に備え、昼間と夜間を想定して実施しています。

訓練の機会が多い理由を尋ねたところ、生活相談員の上垣誠司さんは、「施設には一人で避難できない車いすの利用者がたくさんいます。そのため、避難を手伝う職員の練習が重要なんです。」



上垣 誠司さん

と、答えてくれました。利用者や職員の安全のために、職員の意識を高めることと

実際の動きを確認することが訓練の大きなポイントになっています。また、避難のためのマニュアルも作られており、いざという時には利用者や布団ごと避難させるといったことも決められています。



過去の訓練では、地震を想定した炊き出し訓練も行われました。「食料の備蓄は義務だが、用意しているだけでは、実際災害が起こった時困るのでは」という思いから、取り組まれたそうです。

炊き出し訓練では、利用者や非常食がおいしく食べられるものか確認もしたそうです。食料などの備えだけでなく、災害を想定した様々な体験が、いざという時に役立つべきですね。

職員同士の声のかけ合いが十分ではないなど、これから改善していきたい点もあるそうですが、「避難自体はスムーズに行われるようになってきた」と話す上垣さん。

今後は、訓練の機会が少ない「地震に備えた防災訓練」に取り組んでいきたいそうです。

備蓄食料を保管

小梨地区協働のまちづくりネットワークでは、大災害時に水道・電気が遮断された場合を想定し、救援物資が届くまでの間の防災用備蓄食料として、水と缶詰パンを全世帯分備えています。備蓄食料は避難場所となる小梨公民館に保管されています。



自主防災訓練を実施

自分たちのまちは自分たちで守ろうと、各地域で自主防災訓練が行われています。訓練を通して住民の防災意識が高まっています。

今後の実施予定	
竹原第1地区協働のまちづくりネットワーク	10月12日 北崎公園
荘野協働のまちづくりネットワーク	10月25日 荘野小学校グラウンド
吉名町協働のまちづくりネットワーク	11月1日 吉名小学校グラウンド
竹原第5地区協働のまちづくりネットワーク	11月22日 竹原西小学校グラウンド
東野町協働のまちづくりネットワーク	12月6日 東野小学校グラウンド

企業が資機材等を提供 市と災害協力協定を締結

7月22日、荘野協働のまちづくりネットワークが、市と災害時における協力に関する協定を締結しました。



協定書にサインする榎田会長

この協定は、ネットワークを構成する企業部会が、市内で災害が発生した場合の企業の協力について地域内企業にアンケート調査を実施し、協力項目をとりまとめたもの。これ

により、災害時に企業が専門分野を活かし、市の要請に基づいて、災害用資機材の提供や廃棄物の処理、飲料・宿泊・入浴の提供など22項目にわたり応援・協力を行います。

ネットワーク会長の榎田幸司さんは、「住民同士の協力だけでは補えない部分を企業が支えてくれることで、安心感がある」と評価。地域が一丸となつてまちの安心を築きます。



「各企業がその強みを活かし、災害時には即戦力となって応援ができるのでは」と話す土居協企業部会長